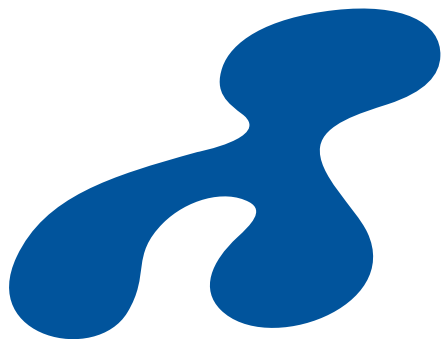


**SECURITY**   
セキュリティ・プラス®



One Step Ahead of The Game  
**Asgent**  
アズジェント

株式会社 アズジェント  
第22期 報 告 書  
2018年4月1日～2019年3月31日



証券コード：4288

# FINANCIAL HIGHLIGHT

## 財務ハイライト

### 期末決算

単位 (百万円)

| 経営成績               | 当期<br>(2018年4月1日から<br>2019年3月31日まで) | 前期<br>(2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで) |
|--------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高                | 3,024                               | 3,513                               |
| 営業損失 (△)           | △174                                | △72                                 |
| 経常損失 (△)           | △122                                | △76                                 |
| 当期純損失 (△)          | △121                                | △86                                 |
| 1株当たり当期純損失 (△) (円) | △31.85                              | △22.63                              |

| 財政状態          | 当期<br>(2019年3月31日現在) | 前期<br>(2018年3月31日現在) |
|---------------|----------------------|----------------------|
| 純資産           | 1,500                | 1,627                |
| 総資産           | 2,261                | 2,356                |
| 1株当たり純資産額 (円) | 393.19               | 425.87               |

| 財務指標   | 当期<br>(2019年3月31日現在) | 前期<br>(2018年3月31日現在) |
|--------|----------------------|----------------------|
| 流動比率   | 264.7%               | 283.8%               |
| 自己資本比率 | 66.3%                | 69.0%                |

(注) 本報告書中において百万円及び千円単位で表示している金額は、単位未満を切り捨てております。

## 株主のみなさまへ

---

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。今般、第22期報告書（2018年4月1日から2019年3月31日まで）をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当事業年度における我が国経済は、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、世界経済においては米中貿易摩擦や中国の景気減速などにより不確実性を増し、景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当社は、飛躍を図るべく、次代を先取りしたオンリーワン商品の投入と、当社セキュリティ・ノウハウを組み合わせたハイブリッド型サービスビジネスを加速させると共に、これまで培ってきたイスラエルとのコネクションを生かした投資育成事業を推進させることに注力しております。また、公共やエンタープライズ向けのITセキュリティ分野に加え、全く新しい市場が立ち上がるコネクテッドカー及びIoT分野を含めたセキュリティ市場を対象に、グローバルな新潮流を体現した独自のポジショニングの確立を図ります。その上で、経営スローガンである「One Step Ahead of the Game ～ その一手先へ」を掲げて、経営理念を軸とした理念経営を推進していくことで、中長期的な成長基盤を確実なものとしします。

今後は、当社のミッションである「アズジェントは業界に革新を起こし、セキュアな社会を実現します。」を具現化することで、ネットワークセキュリティ総合ソリューションベンダーとして、一層の業容拡大と業績向上に努めてまいります。企業価値の増大を実現することで、株主のみなさまの信頼とご期待に沿えるよう社業に邁進する所存でございますので、何卒、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長

杉本 隆洋

## 中期的な経営戦略

サイバーセキュリティを取り巻く環境は、急速に進展するIoT化と増大するサイバーリスクを受けて、サイバーセキュリティ基本法に基づき策定したサイバーセキュリティ戦略が政府主導で進められております。特に、完全自動運転に向けたコネクテッドカーの進展や、デジタルヘルスケア、産業インフラといった領域におけるIoT化の進展により、総合的な対策が急務となっております。

このような環境の下、当社は、2020年度に売上高150億円、営業利益20億円を目指すという中期経営計画を策定しております。この中期経営計画を達成するため、次代を先取りしたオンリーワン商品の投入と、当社セキュリティ・ノウハウを組み合わせたハイブリッド型サービスビジネスを加速させると共に、これまで培ってきたイスラエルとのコネクションを生かした投資育成事業を推進しております。また、公共やエンタープライズ向けのITセキュリティ分野に加え、全く新しい市場が立ち上がるコネクテッドカー及びIoT分野を含めたセキュリティ市場を対象に、グローバルな新潮流を体現した独自のポジショニングの確立を図ります。

以上の方針に基づき、具体的な施策を実施致します。

### 1. 【ITセキュリティ事業】

サービス関連では、MSS事業において進めた高収益事業への構造転換が完了したことに加え、顧客数が着実に増加したことで損益分岐点を超え、収益事業に転換しました。今後、収益基盤として貢献するために、体制強化を図りつつ、サービスメニュー拡張や品質向上を推進することで競争力を高め、着実に顧客を増やしていきます。

プロダクト関連では、厚労省をはじめとした公共セクターにおいて、案件公示となった際に確実に取り込めるよう引き続きフォローを続けます。その他、Deep Instinct や IRONSCALES、Symantec Web Isolation等近年取扱いを開始した新商品については、収益貢献に向け引き続き拡販活動に注力致します。

### 2. 【コネクテッドカーセキュリティ事業】

完全自動運転車の市場投入が間近に迫る中、当社はKaramba社、Upstream社等と契約を締結し、コネクテッドカーセキュリティで他社に先行する圧倒的な商品MIXを有しております。現状、提案活動は着実に進捗しており、デファクト化に向け、中期的な視点での取組を推進します。

また、ヘルスケアや産業インフラといった領域でもIoT化が進展しており、セキュリティ対策が急務となっております。そのため、コネクテッドカー及びIoT機器に対するサイバー攻撃対策ソリューションの充実を図ることで、新たに創出されるセキュリティ市場の取り込みを図ります。

### 3. 【投資育成事業】

当社が長年培ってきたコネクションを活かし、イスラエルのセキュリティ関連のスタートアップ企業に対してストックケースとして投資を行っており、現状会計上は反映しておりませんが、グローバルでも注目される高いバリエーションを有しており、当事業年度はそのうちの一部で投資額の5倍超の運用益が実現するなど成果が出ております。今後は、世界中から注目が集まるイスラエルのセキュリティスタートアップ企業投資を本格化させる準備を始めます。これまで出資したテストケース同様に、早期に情報を収集し見極めを図ります。

## 当期の概況

### ① 当期の概況

主な活動内容としては、近年取扱いを開始した新商品の立上げを促進すべく、市場ニーズに応えるための販売形態の多様化やバージョンアップ版の投入を推進しました。例えば、次世代エンドポイントマルウェア対策製品 Deep InstinctのSaaS版の提供や、無害化ソリューション Votiro Disarmer (旧名称：Votiro Secure Data Sanitization) の機能強化のためのバージョンアップ等です。

サービス関連のMSS事業においては、体制強化と高収益事業への構造転換が完了したことに加え、顧客数が着実に増加したことで損益分岐点を超え、収益事業に転換しました。

また、投資育成事業では、当社がテストケースとして出資を行っているイスラエルのインキュベータである Team8 において、Team8 が投資、インキュベートしている一部のサイバーセキュリティ関連スタートアップ企業の買収が確定したことにより、当該部分のみで当社の出資分の5倍超の運用益を実現致しました。

### ② 財政状態及び経営成績の分析

業績につきましては、過去に販売したセキュリティ機器のリリース需要が対象システムの統廃合や競合製品との競争激化により想定を下回る結果となったことや、近年取扱いを開始した新商品の立ち上がりが遅れたこと

が影響しました。厚労省をはじめとした公共セクターの大型案件の調達が次期後半以降にずれ込む形となったことが最大の要因となり、売上高は3,024百万円となりました。一方、コストについては中期経営計画の達成に向けた施策を加速させるための人員体制強化を推進したものの、経費節減を推進した事もあり予想よりも少ない金額に抑える事ができました。また、投資育成事業において第3四半期に50百万円の運用益を計上するなどして、第3四半期、第4四半期は黒字化しましたが、上期の損失をカバーするには至らず、各段階利益につきましては、営業損失174百万円、経常損失122百万円、当期純損失121百万円となりました。

当事業年度末における総資産は2,261百万円となり、前事業年度末に比べ94百万円減少しました。これは主に商品及び製品が29百万円、工具、器具及び備品が52百万円、ソフトウェアが20百万円減少したことなどによるものであります。負債合計は761百万円となり、前事業年度末に比べ31百万円増加しました。これは主に前受金が20百万円、未払法人税等が9百万円増加したことなどによるものであります。当事業年度末における純資産合計は1,500百万円となり、前事業年度末に比べ126百万円減少しました。これは主に当期純損失121百万円などによるものであります。

## 通期の見通し

当社は、中長期的な成長基盤を確実なものとするため、次代を先取りしたオンリーワン商品の投入と、当社セキュリティ・ノウハウを組み合わせたハイブリッド型サービスビジネスを加速させると共に、これまで培ってきたイスラエルとのコネクションを活かした投資育成事業の推進に取り組んでおります。

当事業年度は、サービス関連のMSS事業において前事業年度第4四半期中に損益分岐点を超え、収益事業に転換しましたので、収益基盤として貢献します。今後は、サービスメニュー拡張や品質向上を推進することと体制強化を推進することで競争力を高め、着実に顧客を増やしていきます。

プロダクト関連では、厚労省をはじめとした公共セクターにおいて、案件公示となった際に確実に取り込めるよう引き続きフォローを続けます。一方、近年取扱いを開始した新商品の拡販活動については、当事業年度後半より販売実績が上がり始めていますので、収益貢献に向け引き続き拡販活動に注力致します。

Karamba社をはじめとしたコネクテッドカーセキュリティに関しては、採用に向けた拡販活動は進展しており、中期的な視点での取組を継続すると共に、IoT機器に対するサイバー攻撃対策ソリューションの充実を図ることで、新たに創出されるセキュリティ市場の取込を図ります。

投資育成事業に関しては、世界的に注目の集まるイスラエルのセキュリティスタートアップ企業への投資を本格化させる準備を始めます。これまで出資したテストケース同様に、早期に情報を収集し見極めを図ります。

通期の見通しにつきましては、プロダクト関連、サービス関連共に販売の伸長を見込んでおります。サービス関連は、上述の通り損益分岐点を超えたことで収益貢献を見込んでおります。これは、MSS事業がストックビジネスモデルであるため、損益分岐点を超えれば、ストック増加分が収益増加に繋がるためです。一方、プロダクト関連では、当事業年度からずれ込んだ大型案件を見込んでおりますが、厚労省をはじめとした公共セクターにおける大型案件が遅れており、業績に及ぼす影響が現時点では想定が難しい状況です。

業績予想の開示が可能になった時点で、速やかに開示致します。

# FINANCIAL DATA

## 決算概要

### 貸借対照表 (要旨)

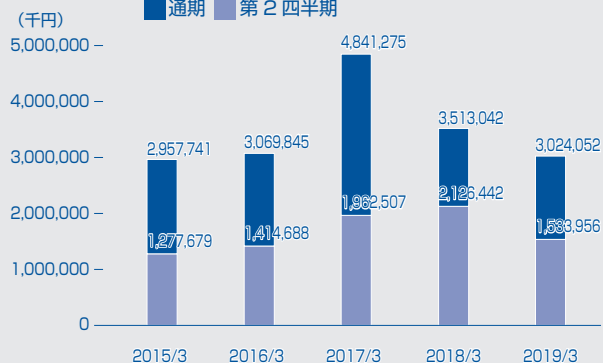
単位 (千円)

| 科 目      | 当 期<br>(2019年3月31日現在) | 前 期<br>(2018年3月31日現在) |
|----------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部     |                       |                       |
| 流動資産     | 1,725,891             | 1,754,446             |
| 固定資産     | 535,591               | 602,030               |
| 有形固定資産   | 243,646               | 298,806               |
| 無形固定資産   | 26,018                | 46,132                |
| 投資その他の資産 | 265,926               | 257,092               |
| 資産合計     | 2,261,482             | 2,356,477             |

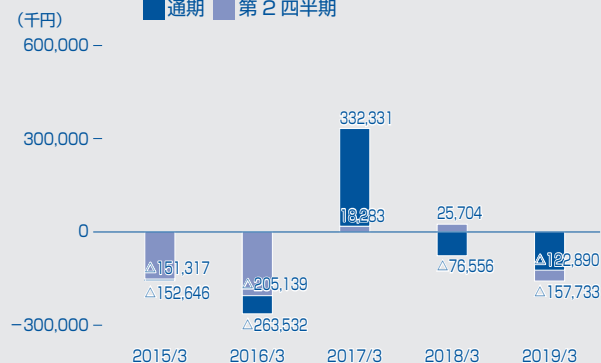
単位 (千円)

| 科 目          | 当 期<br>(2019年3月31日現在) | 前 期<br>(2018年3月31日現在) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部         |                       |                       |
| 流動負債         | 651,972               | 627,777               |
| 固定負債         | 109,235               | 101,462               |
| 負債合計         | 761,208               | 729,240               |
| 純資産の部        |                       |                       |
| 株主資本         | 1,503,651             | 1,634,830             |
| 資本金          | 771,110               | 771,110               |
| 資本剰余金        | 705,200               | 705,200               |
| 利益剰余金        | 27,593                | 158,680               |
| 自己株式         | △252                  | △160                  |
| 評価・換算差額等     | △3,376                | △9,833                |
| その他有価証券評価差額金 | △3,376                | △9,833                |
| 新株予約権        | —                     | 2,240                 |
| 純資産合計        | 1,500,274             | 1,627,237             |
| 負債純資産合計      | 2,261,482             | 2,356,477             |

### 売上高



### 経常利益

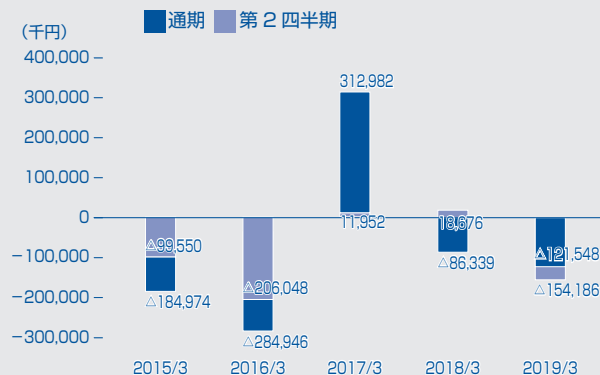


## 損益計算書（要旨）

単位（千円）

| 科 目          | 当 期<br>(2018年4月1日から<br>2019年3月31日まで) | 前 期<br>(2017年4月1日から<br>2018年3月31日まで) |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高          | 3,024,052                            | 3,513,042                            |
| 売上原価         | 1,758,534                            | 2,145,754                            |
| 売上総利益        | 1,265,518                            | 1,367,287                            |
| 販売費及び一般管理費   | 1,439,850                            | 1,439,351                            |
| 営業損失（△）      | △174,332                             | △72,063                              |
| 営業外収益        | 55,078                               | 918                                  |
| 営業外費用        | 3,637                                | 5,412                                |
| 経常損失（△）      | △122,890                             | △76,556                              |
| 特別利益         | 2,312                                | 79                                   |
| 特別損失         | —                                    | 1,782                                |
| 税引前当期純損失（△）  | △120,578                             | △78,259                              |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,299                                | 2,301                                |
| 法人税等調整額      | △1,330                               | 5,779                                |
| 当期純損失（△）     | △121,548                             | △86,339                              |

## 当期純利益



## キャッシュ・フロー計算書（要旨）

単位（千円）

| 科 目                | 当 期<br>(2018年4月1日から<br>2019年3月31日まで) |
|--------------------|--------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー   | 46,399                               |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー   | △13,860                              |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー   | △9,580                               |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額   | 171                                  |
| 現金及び現金同等物の増減額（減少△） | 23,131                               |
| 現金及び現金同等物の期首残高     | 882,336                              |
| 現金及び現金同等物の期末残高     | 905,468                              |

## 株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

単位（千円）

|                         | 株主資本    |                |             |                              |
|-------------------------|---------|----------------|-------------|------------------------------|
|                         | 資本金     | 資本剰余金<br>資本準備金 | 資本剰余金<br>合計 | 利益剰余金<br>その他利益剰余金<br>繰越利益剰余金 |
| 当期首残高                   | 771,110 | 705,200        | 705,200     | 158,680                      |
| 当期変動額                   | —       | —              | —           | —                            |
| 剰余金の配当                  | —       | —              | —           | △9,539                       |
| 当期純損失                   | —       | —              | —           | △121,548                     |
| 自己株式の取得<br>新株予約権の失効     | —       | —              | —           | —                            |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | —       | —              | —           | —                            |
| 当期変動額合計                 | —       | —              | —           | △131,087                     |
| 当期末残高                   | 771,110 | 705,200        | 705,200     | 27,593                       |

|                         | 株主資本 |            | 評価・換算差額等             |                | 新株<br>予約権 | 純資産<br>合計 |
|-------------------------|------|------------|----------------------|----------------|-----------|-----------|
|                         | 自己株式 | 株主<br>資本合計 | その他<br>有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |           |           |
| 当期首残高                   | △160 | 1,634,830  | △9,833               | △9,833         | 2,240     | 1,627,237 |
| 当期変動額                   | —    | —          | —                    | —              | —         | —         |
| 剰余金の配当                  | —    | △9,539     | —                    | —              | —         | △9,539    |
| 当期純損失                   | —    | △121,548   | —                    | —              | —         | △121,548  |
| 自己株式の取得<br>新株予約権の失効     | △92  | △92        | —                    | —              | —         | △92       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額（純額） | —    | —          | 6,456                | 6,456          | —         | 6,456     |
| 当期変動額合計                 | △92  | △131,179   | 6,456                | 6,456          | △2,240    | △126,963  |
| 当期末残高                   | △252 | 1,503,651  | △3,376               | △3,376         | —         | 1,500,274 |



## TOPICS

### トピックス

2019年3月

- A** ●コネクテッドカーセキュリティパートナー Karamba社、SC Magazineの「Highly Regarded Innovator Awards」を受賞

2019年2月

- 無害化ソリューション「Votiro Disarmer」がバージョンアップ!管理機能の強化、パスワード付き圧縮ファイル対応などの新機能を追加

2019年2月

- B** ●ディープラーニングを用いた次世代マルウェア対策エンドポイント製品 Deep Instinct、SaaS型サービスの提供を開始

2019年1月

- オートモーティブワールドでコネクテッドカー時代に必須となるセキュリティソリューションを展示

2018年11月

- A** ●コネクテッドカー向けセキュリティ製品「Carwall」、STマイクロエレクトロニクス社の車載用プロセッサ Telemaco3Piに搭載

2018年10月

- アズジェントのセキュリティ 3製品がSOMPOリスクマネジメントのセキュリティサービスに採用

2018年6月

- ディープラーニングを用いた次世代マルウェア対策エンドポイント製品 Deep Instinct、Interop Tokyo 2018にて審査員特別賞を受賞

2018年6月

- A** ●コネクテッドカーセキュリティパートナー Karamba社、2年連続で「Best Cybersecurity Product」賞を受賞

2018年6月

- A** ●コネクテッドカーセキュリティパートナー Karamba社、マイクロン社との連携を発表

2018年5月

- C** ●標的型フィッシングメール対策自動化ソリューションIRONSCALES販売開始

# コネクテッドカーセキュリティ

## **A** コネクテッドカーセキュリティパートナー Karamba社におけるアライアンス・受賞

当社のコネクテッドカーセキュリティパートナーであるKaramba社において、当事業年度で複数のアライアンス・受賞実績がありました。

### <アライアンス>

- 2018年6月、半導体ベンダー Micron Technology, Inc. と業務提携し、Karamba社のソリューションにMicron® Authentica™のセキュリティアーキテクチャを採用することを発表しました。この先進的な実装により、業界で期待されているKarambaソリューションのパフォーマンスを維持しながら、より強固なセキュリティを提供します。

### <受賞>

- 2018年6月、米国デトロイトで開催されたTU-Automotive Detroitで、Best Auto Cybersecurity Productを2年連続で受賞しました。今回の受賞は、Karamba社の自動車用認証ソリューション「SafeCAN」が評価されての受賞となりました。「SafeCAN」は、車両内通信を認証する自動車メーカーのニーズに応え、認証されていない電子制御ユニット (ECU) から送られる悪質なメッセージから車両を保護するために開発されました。

### <アライアンス>

- 2018年11月、Karamba社の「Carwall」が、STマイクロエレクトロニクス社 (NYSE:STM、以下ST社) の車載用プロセッサであるTelemaco3P (STA1385) に搭載されることになりました。「Carwall」は、最先端の電力効率設計、高速通信インターフェース、ドメイン分離、組込みハードウェア・セキュリティ・モジュールなどの特徴を持つST社のTelemaco3Piに、さらなるセキュリティを追加します。両技術の統合により、車載システムのサイバー・セキュリティ保護を大幅に強化することができます。

### <受賞>

- 2019年3月、SC Magazineの「Highly Regarded Innovator Awards」を受賞しました。Karamba社の受賞は、アクセスコントロール部門での受賞となります。自動車やIoTシステムへのサイバー攻撃を防ぐという特定のニーズに対処するためのプラットフォームを開発することが評価されての受賞となりました。



# ITセキュリティ

## ① ディープラーニングを用いた次世代マルウェア対策エンドポイント製品Deep Instinct、SaaS型サービスの提供を開始

Deep Instinctは、ニューラルネットワークを用いたディープラーニングにより、被害が発生する前に脅威を検知、防御するNGEPP（次世代エンドポイントプロテクション）製品です。何百万もの様々なファイルタイプのマルウェアをディープラーニングによって繰り返し学習しており、既知・未知にかかわらず様々なファイルタイプのマルウェアをエンドポイントで実行される前にリアルタイムで検知し、ブロックします。「エンドポイント対策をしたいが導入・運用に手間がかかる」、「標的型攻撃などの未知の脅威を検知した際、どう対応したらいいかわからない」といった組織を対象にDeep InstinctをSaaS提供します。Deep Instinctは未知の脅威防御時に対応策を検討できるよう、マルウェア分類機能やサンドボックス等強力なマルウェア解析機能を実装し、また、管理サーバを準備する必要がなく、今までの次世代エンドポイント製品では必要だった年数回のアップデートも年1回に減り、セキュリティ対策コストも包括的に軽減できます。

deepinstinct



## ② 標的型フィッシングメール対策自動化ソリューション IRONSCALES販売開始

IRONSCALESは、ばらまき型フィッシングメールやビジネス詐欺メールに対応したアンチフィッシングプラットフォームです。マシンラーニングを用いて、個人のメールボックスのやりとりを学習し、メール内のURL、添付ファイルのスキャンを行うだけでなく、受信者個人のメール利用傾向に応じた「なりすまし」をAIで検出します。また、フィッシングメール受信者の報告、セキュリティ担当者の分析、対応までを一貫して行うことができるため、受信者、セキュリティ担当者、双方の負荷を軽減することができます。Microsoft Office 365+ATP、Gsuite ですり抜けてしまう標的型フィッシングメールとビジネス詐欺メールの発見、全ユーザのメールボックスに到達してしまったこれらのメールの把握と削除処理の省力化、自動化に有効なソリューションになります。

Ironscales社は、2017年にはCyber Defense MagazineのMessaging Security Solution部門、SC Awards 2017のEmail Security Solution部門、Cybersecurity Excellence AwardsのBest Cybersecurity Startup部門などでファイナリストに選ばれています。また、本年もSC Awards 2018のBest Emerging Technology部門においてファイナリストを受賞するなど多くの評価を得ています。



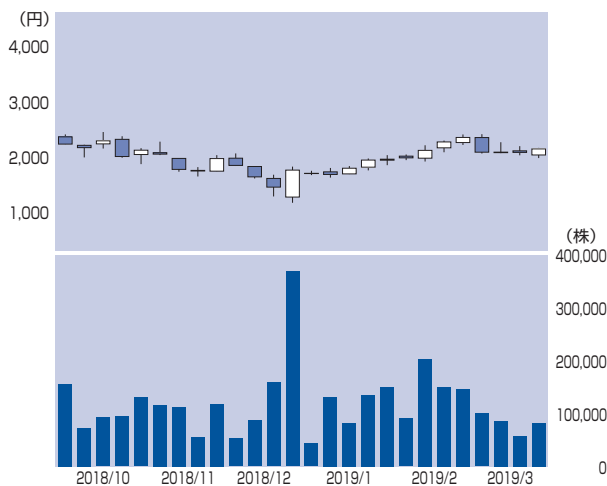
# STOCK INFORMATION

株式の状況 (2019年3月31日現在)

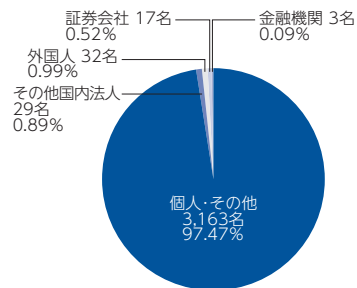
発行可能株式総数 13,680,000株  
 発行済株式総数 3,815,649株  
 (自己株式85株を除く)  
 株主数 3,245名  
 大株主 (上位10名)

| 株主名  | 持株数(株)    | 持株比率(%) |
|--|-----------|---------|
| 株式会社アズウェルマネジメント                                      | 1,376,100 | 36.0    |
| 杉本隆洋   | 512,300   | 13.4    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社<br>(信託口)                        | 119,800   | 3.1     |
| 松井証券株式会社   | 105,400   | 2.7     |
| NOMURA PB NOMINEES LIMITED<br>OMNIBUS-MARGIN(CASHPB) | 87,900    | 2.3     |
| 株式会社オービックビジネスコンサルタント                                 | 63,600    | 1.6     |
| 会田研二   | 61,300    | 1.6     |
| 井上純孝   | 48,000    | 1.2     |
| 楽天証券株式会社   | 37,500    | 0.9     |
| 牧アキ  | 30,000    | 0.7     |

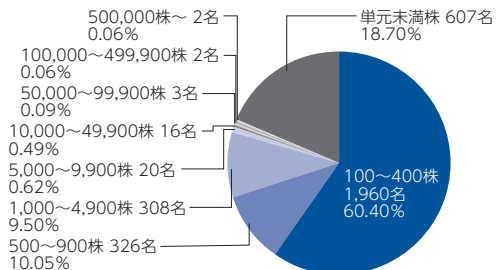
## 株価チャート (週足)



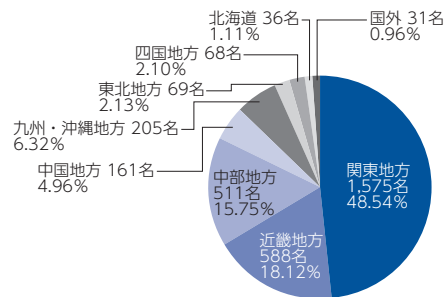
## 所有者別株主分布状況



## 所有数別株式分布状況



## 地域別株主分布状況



# CORPORATE DATA

会社概要 (2019年6月27日現在)



商 号 株式会社アズエージェント  
英 文 名 Asgent, Inc.

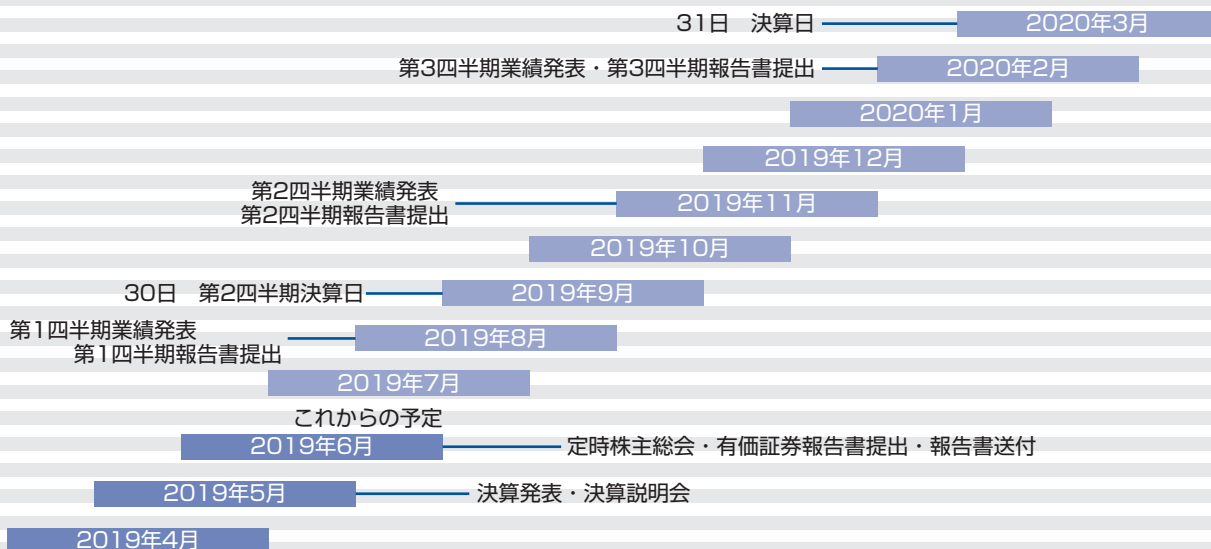
住 所 〒104-0044 東京都中央区明石町6-4  
設 立 1997年11月10日  
資 本 金 7億7,111万円  
社 員 数 134名  
事 業 内 容 ネットワークセキュリティ関連商品の輸入販売  
及び保守、各種セキュリティ関連サービスの提  
供並びにセキュリティ・ポリシー策定運用支援  
コンサルティングやトレーニングの開催等

## 役 員

|           |         |
|-----------|---------|
| 代表取締役社長   | 杉 本 隆 洋 |
| 取 締 役     | 葛 城 岳 典 |
| 取 締 役     | 杉 山 卓 也 |
| 社 外 取 締 役 | 三 森 裕   |
| 常 勤 監 査 役 | 宮野尾 幸 裕 |
| 監 査 役     | 鈴 木 一 郎 |
| 監 査 役     | 塩 谷 一 郎 |

## IR CALENDAR

IR・株式カレンダー



## 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 上記基準日 毎年3月31日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

配当金受領株主確定日  
 剰余金の配当 3月31日  
 中間配当金 9月30日  
 株主名簿管理人 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

|                                   | 証券会社に口座をお持ちの場合   | 特別口座の場合  |
|-----------------------------------|--|--|
| 郵便物送付先                            | お取引の証券会社になります。   | 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4<br>みずほ信託銀行 証券代行部   |
| 電話お問合せ先                           |  | フリーダイヤル 0120-288-324<br>(土・日・祝日を除く9:00~17:00)  |
| 各種手続お取扱店<br>(住所変更、株主配当金受取り方法の変更等) |  | みずほ証券<br>本店および全国各支店<br>プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱いいたします。<br><br>みずほ信託銀行<br>本店および全国各支店<br>*トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。 |
| 未払配当金のお支払                         | みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店および全国各支店<br>(みずほ証券では取次のみとなります)           |  |
| ご注意                               | 支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合せ先・各種手続きお取扱店をご利用ください。 | 特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。  |

公 告 方 法 電子公告により行います。ただし電子公告によることのできない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。  
 < 電 子 公 告 掲 載 URL >  
<https://www.asgent.co.jp/>



**Asgent 株式会社 アズジェント**

〒104-0044 東京都中央区明石町 6-4  
 6-4 Akashicho, Chuo-ku, Tokyo 104-0044 Japan  
 Phone : 03-6853-7401  
 URL : <https://www.asgent.co.jp/>